【地域医療と福祉の取り組みについて】

福祉の課題については、この室戸も含めて、県内全域で医師の数が減っているということです。実は、高知県は、全国の中でも１人当たりの医師の数が、第３位ぐらいに多いんです。だけど、それは高知市の周辺に多いということ。室戸市などの東部とか西部とか、そういうところの医師の数は少なくて困っています。またもう１つは、若い医師の数が少ないということ。そしてもう１つは、ものすごく大変な手術をしなければいけない診療科の医師が少なくて困っているというのが、高知県の医療現場の現状です。

どうやって地域の医療を確保するかが、今、ものすごく大きな課題になっています。そのために、「高知医療再生機構」というのを作って、若い医師の腕を磨けるような設備をたくさん作って、若い医師達に全国から来てもらって勉強してもらう。そして、高知に残ってもらおうという取り組みを進めたりしています。

そして、安芸・芸陽病院の建て替え。今度、新しい病院を作る予定ですが、そこを地域の医療に携わってくれる先生を養成する拠点病院にしようと、取り組みを進めています。また、ドクターヘリをもう一機導入し、２つのヘリコプターで高知県の東部地域と医療センターを結んで、何かあった時には、高知市から医師に来てもらう、またはこちらから患者を運ぶという取り組みを進めていこうと考えているところです。

このような医師不足の問題とともに、特に高齢者の方の日々の暮らしをどうするかということも、高知県の福祉の現場では非常に大きな課題になっています。

高知県の中山間地域では、高齢者の独り暮らしというのがものすごく増えているんです。連れ合い（配偶者）を亡くしてお一人になった方や、障害のある方もいます。しかし、周りには、それを支えてくれる若い人がいない。高齢者の皆さんが孤立しているという状況が起こっている。残念ながら、家の中で倒れていても誰も気付かないということが、たくさん起こっているんです。こういう状況を、まず何とかしなければいけない。

さらに、交通手段がなくて困っているという状況もあります。買い物をしに行こうにも、交通手段がない。買い物に行けないからご飯を食べることができない。風邪で倒れていて伏せっていても、誰も助けてくれないといったら、ものすごく大変でしょう。けれど、高知県では、こういう人の数がものすごく増えていて、大きな課題になっています。

普通は、こういう状況になると、民間の会社がいろいろな福祉サービスというのを提供してくれるようになります。けれど、残念ながら高知県の場合は、それがなかなかうまくいきません。どうしてかというと、人の数が少ないので、サービスを提供しようにも、商売にならないからです。結果として、孤立した高齢者の方がそのまま放置されてしまっているということが、たくさん起こっています。それを何とか、県とかで、この福祉の取り組みを助けていきたいと、高知型福祉の推進を今、進めています。「あったかふれあいセンター」の取り組み、さらには、地域見守り協定の取り組みなど、官のほうでいろいろ行って、高齢者の皆さんを支えていこうとしているところです。日々の暮らしに関わる問題、それぞれの生活を支えていくという問題ですから、ものすごく難しい課題です。でも、こ

の分野ほど、若い人達の力が必要とされているところはないと思っています。